

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『給食の思い出』

奈良県奈良市立飛鳥小学校 六年三組 男子 岡村 奏

私の給食の思い出は「焼きそば」です。

今は奈良の学校に行っています。一年生までの短い間は、東京に住んでいました。一年生の頃のことなので、あまりはつきりとした記憶ではありませんが、仲の良い友達もたくさんいて楽しく学校に行っていました。そんな東京の学校生活最後の給食で食べた「焼きそば」が普通の焼きそばなはずなのに、まるで何かの魔法がかかっているかのように、とつても美味しかったです。それは今まで仲良くしていた友達と食べる最後の給食だったからでしょうか。そして、転校する当日、学級のみんなから、よせ書きをもらいました。その中には、クラス全員が書いてくれた手紙と共に、最後の給食だった「焼きそば」を美味しく食べている私の写真が張ってありました。今でも、そのよせ書きは、本棚に大切にしまっています。ときどき、そのよせ書きを見返して、あの時のことを思い出しています。

そして、実は転校してきたその年にも、思い出ができたのです。それは、ある時、学校の給食でかしわのすき焼きという料理ができました。なぜ牛肉ではなく鶏肉なのかというと、奈良には、天神様という神様がいて、その神様の守り神が牛なので牛を使った料理はお供えしてはいけない、という風習があったからだそうです。そして、それを食べた時に、思いつきました。東京にはなかった給食や奈良の学校のことを、新聞にして、東京の学校に送ろう、と。家に帰って、早速新聞作り取りかかりました。それから、しばらくの間奈良と東京を新聞が行き交いました。その新聞の返信がくる度に私は胸がワクワクしました。どんな話が返ってくるかが楽しみだったからです。今は、小学六年生になって、東京の友達との交流はあまりありませんが、東京にいた時のことは曖昧な記憶でも、忘れることは、決してありません。だから、私の心に残る給食は、二つの給食なのです。

このように、私の中で二つの出来事が一つの思い出となって残っています。心に残る給食は、誰でも一つはあると思います。けれど無理矢理つくるものではなく、後になつてから思い出として残るものだと、よせ書きを見返す度に考えてしまいます。だから、私の心に残る給食の思い出は、転校前に食べた給食の「焼きそば」と、転校後に食べた「かしわのすき焼き」です。